

聖書の物語と私たち 9

モーセの生涯その1

司祭。パウロ鈴木伸明

ヤコブの一族がヨセフの時代にエジプトへ移り、ナイル川河口の東側一帯に広がるゴシェンに住むことになりました。ヤコブもエジプトへ行き、もう死んでしまったと思っていた息子ヨセフとの再会を果たしてエジプトの地で亡くなりました。エジプトで大きな業績を残したヨセフもまた、棺におさめられる日がやってきました。こうしてイスラエルの人々はエジプトで生活することになったのです。さて、その後イスラエルの人たちは、エジプトの地でどうなっていたのでしょうか。

イスラエルの人たちは大いに増え広がり、エジプトの人々が脅威を感じるほどになっていきます。エジプトの人々とは、このままでは国を奪われかねないし、イスラエルの人々が戦いを挑んで来たら対応できなくなってしまうと警戒を強めました。

エジプトの人々はそこで、イスラエルの人々の上に強制労働の監督を置き、重労働を課して虐待しました。そうすれば人口が減ると考えたのです。しかし、それでも人口は減りませんでした。エジプト人はますます

イスラエルの人々を嫌悪して酷使し、粘土こね、れんが焼き、あらゆる農作業などの重労働により彼らの生活を脅かしました。

当時のエジプト王(ファラオ)はエジプト第19王朝のラメセス2世と言われています。ラメセス2世は権力を示すためエジプト各地に記念物を造らせた王として知られています。

さらにファラオは、イスラエルに対しても一つ大変な命令を下したのでした。ファラオは全国民に命じた。

「生まれた男の子は、一人残らずナイル川にほうり込め。女の子は皆、生かしておけ。」
(出エジプト記1章22節)

モーセはこのような背景のもとで、イスラエルのレビ族の一員として誕生したのでした。

モーセは当然、先ほどのファラオの命令によって殺されねばならない存在でした。しかし母親と姉の働きによって王家の子どもとして育てられることになったのです。母親も乳母として引き続きモーセを育てることになりました。モーセという名前



中塚 梢 画

は王女によってつけられたものであり「引き上げる」という意味に由来しています。モーセはこのように、王宮で大変恵まれた日々を過ごし、同胞であるイスラエルの人々(ヘブライ人)が、大いに苦しむうめきながらエジプトでの生活を余儀なくされているのを知らずにいたのです。そしてモーセが成人したある日、モーセの人生に大きな変化が起きることになります。

モーセが成人したころのこと、彼は同胞のところへ出て行き、彼らが重労働に服しているのを見た。そして一人のエジプト人が、同胞であるヘブライ人の一人を打っているのを見た。モーセは辺りを見回し、だれもないのを確かめると、そのエジ

プト人を打ち殺して死体を砂に埋めた。翌日、また出て行くと、今度はヘブライ人どうしが二人でけんかをしていて。モーセが、「どうして自分の仲間を殴るのか」と悪い方をたしなめると、「誰がお前を我々の監督や裁判官にしたのか。お前はあの

エジプト人を殺したように、このわたしを殺すつもりか」と言い返したので、モーセは恐れ、さてはあの事が知れたのかと思った。ファラオはこの事を聞き、モーセを殺そうと尋ね求めたが、モーセはファラオの手を逃れてミディアン地方にたどりつき、とある井戸の傍らに腰を下ろした。(出エジプト記2章11節から15節)

モーセは誰も見ていないと思って、いたのに同胞に見られていたのに驚きました。そして自分がエジプト人を殺したのを同胞は、喜ぶどころか受け入れず、ファラオの怒りまでもかかってしまったのでした。モーセは王宮の家族も豊かな暮らしもすべて捨て、ミディアンの地に逃れたのでした。

このようにモーセの人生最初の40年は、王宮における豊かな暮らしの日々でした。そして次の40年がミディアンにおける日々で、モーセへの神様による教育訓練の時と言うことができます。そして最後の40年が「出エジプト」の40年となります。今回は、ミディアンにおけるモーセの日々と、出エジプトの旅前半部分について一緒に学んでいきましょう。

(川越キリスト教会牧師)